

2010年度(平成22年度)学校評価自己評価表

最終更新日	2011年(平成23年) 3月 3日
-------	--------------------

校番 21	福山市立 駅家中 学校
-------	-------------

1 学校教育目標

自主的に生活を切り開き、主体的に学習し、仲間と共にのびていく生徒の育成

2 経営理念

(1) 地域社会における自校の使命(ミッション)

絆を大切に「豊かな心」「確かな学力」「生活力」をつけ郷土を愛し
21世紀を担う人材を育成する駅家中学校

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

「駅家中学校で学んでよかった」と評価される教育を提供する学校

1 人間力の育成

- ・学力の向上・・・基礎基本の定着をめざし、努力を継続する生徒の育成
- ・豊かな心の育成・思いやりを身につけ実践する生徒の育成
- ・健康な体の育成・自ら健康に関して考え・判断・行動する生徒の育成

「人間力の育成」に向け、【生徒行動目標】として、次の6点の具現化に努める。

①真剣に授業をうけよう ②友達を大切にしよう ③部活動にすすんで参加しよう
④あいさつができる生徒になろう ⑤みんなの手で美しい学校をつくろう
⑥ルールが守れる生徒になろう

2 学校力の強化

- ・教師の授業力を高め、優れた教育を提供する
- ・組織人としての力量を高める

3 自校の現状分析

生徒アンケートより(H21年3月→H22年3月)

- ・学校、学級は温かい雰囲気の中で安心して学べる場である。…78%→84%
- ・授業中、先生の話や友達の発表を聴いている。…84%→88%
- ・部活動に積極的に参加している。…73%→75%
- ・駅家中学校はあいさつができる学校である。…76%→84%

など、一年間の実践により、肯定的評価が前年度と比較し2～8ポイント上昇している。また「駅家中学校はきまりの守れる学校である」の肯定的回答も昨年度を9ポイント上回ることで、一定の成果を得ることができた。しかし、自分の姿を甘く捉えたり、当たり前前できなかった生徒、行動に移せない生徒が依然と多い現状がある。さらに、基礎学力の向上に深く関係する家庭学習習慣の定着も、70%程度で微増に止まっている。また不登校生徒についても増加の傾向にあるので、今後も継続したきめ細かい取組みが必要である。

4 研究主題

(1) 研究主題

生きる力の育成
～キャリア発達に関わる能力の育成と基礎・基本の定着をめざして～

(2) 研究指定

指 定	事 業 名 等	期 間
市	福山市教育支援事業(総合的な学習の時間)	H22～H24, 3年間
市	少人数指導推進支援事業(数学)	1年間

5 今年度の重点目標と設定理由

重 点 目 標	設 定 理 由
① 基礎基本の定着 ・授業改善を通して「話を聴く力(姿勢)」をつける ・家庭学習習慣を定着させる。	・全体的に落ち着いた雰囲気の中で、学校生活を送っている。しかしそれが学力の定着に結びついていない実態がある。意欲的に集中して学習する力を着けていないことや、家庭学習習慣の定着が不十分であることが要因である。本年度も引き続き取り組み、定着を図っていきたい。
② 生徒行動目標の具現化 特に本年度は「あいさつ」「ルール(時間)を守る」「環境美化」の徹底を図る。	・『生徒行動目標』の中から、昨年度は「あいさつ」と「ルール(時間)を守る」の2点に焦点化したことで、一定の成果を得ることができた。本年度はこれに「美しい学校をつくる」を加え、規律3要素の徹底を図り、心を育てるとともに「生きる力」を育成していく。

6 評価基準

評価・指標評価	基 準	
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

・自己評価(中間)の基準は、10月20日までの計画に対する達成状況とする。

7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(最終) 評価	評価項目・指標等 (△成果 ▽取組み ◇成果と取組み に着目)	(最終) 指標 評価	□ 評価項目・指標等 ○ 短期(中期)経営目標 の達成状況 ◎ 改善方策
確かな学力	1	主体的に学ぶ生徒の育成を通して基礎・基本の学力定着を図る ・学習規律の徹底と学習意欲の向上 ・家庭学習習慣の定着	★	新規	集中して学習する力を着ける取組みから、「駅中は真剣に授業ができる」と答える生徒を75%以上にする。	B	▽教材・発問の工夫や、辞書の活用等を通して生徒の能力や意欲を高める授業づくりを推進する。 (教職員アンケートにおいて、「教材の工夫」及び「発問の工夫」に対する平均の肯定的回答を90%以上にする)	b	□ 教材・発問の工夫についての1月末教職員アンケート結果は、教材の工夫・発問ともに100%の肯定的回答であった。しかし、辞書の活用については50%と中間評価を9ポイント上回るにとどまった。 また、「聴く(姿勢)にこだわった授業実践」についての肯定的回答は93%であり、教員の意識向上は進んだと考える。
							◇全教職員で「聴く(姿勢)」にこだわった授業実践(実践率90%)をすすめ、「学習のルールを守る」ことを徹底する。(学習のルール…『チャイム着席』『授業始め終わりのあいさつ(語先後礼)』『忘れ物をしない』『話や発表を聴く』『私語をしない』について生徒アンケートでの平均肯定的回答を80%以上にする)	a	□ 「学習のルールを守る」に関して、2学期末の生徒アンケートにおける、各項目の肯定的回答は、『チャイム着席』…93%、『授業始め終わりのあいさつ』…76%、『忘れ物をしない』…89%、『話や発表を聴く』…85%、『私語をしない』…78%であり、平均肯定的回答は84%であった。 ○ 2学期末の生徒アンケートでは「駅中は真剣に授業ができる」についての肯定的回答は74%と、中間評価に続いて目標を1ポイント下回った。 ◎ 各評価項目・指標に関しては、多くの項目が目標を上回っている。しかし、「意欲を高める授業づくり」における辞書の活用や、「学習のルールを守る」における『あいさつ』や『私語』など、教職員・生徒ともに目標を下回っている項目があり、それが、短期経営目標に1ポイント届かなかった原因と考えられる。 特に『授業始め終わりのあいさつ』については、教員の指導でも肯定的評価は73%と低い。あいさつは学習意欲とも深くつながっている面もあり、次年度は、辞書の活用などの授業改善とともに、授業でのあいさつの徹底に取り組んでいく。

		★ 新規	家庭学習を1日1時間以上する生徒を70%以上にする	A	◇家庭学習についての指導を徹底し、「漢字帳(国)」「数学プリント」及び「単語帳(英)」の提出率を75%以上にする。	<p>□ 10月(中間評価)と1月の提出率の状況は次の通りである。</p> <table border="1" data-bbox="1496 236 2107 491"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>漢字帳(国)</th> <th>数学プリント</th> <th>単語帳(英)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1年生</td> <td>10月</td> <td>100%</td> <td>95%</td> <td>95%</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>100%</td> <td>99%</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2年生</td> <td>10月</td> <td>62%</td> <td>69%</td> <td>63%</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>95%</td> <td>94%</td> <td>94%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">3年生</td> <td>10月</td> <td>69%</td> <td>87%</td> <td>79%</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>63%</td> <td>89%</td> <td>75%</td> </tr> </tbody> </table> <p>特に課題のあった2年生に重点的に取り組むことで、1月の全学年の平均提出率は90%と、目標を15ポイント上回った。 また、2学期末生徒アンケートでも、各教科それぞれについて「提出しているか」に対する肯定的評価の全学年平均は、漢字帳…86%、数学プリント…88%、単語帳…85%で、生徒アンケートでも目標を10ポイント以上、上回った。 ○ 2学期末の生徒アンケートで「家庭学習は毎日1時間以上している」の肯定的回答は75%であった。 ◎ 短期目標、評価項目・指標等とも目標を達成している。課題のあった2年生も提出率の掲示や家庭との連携などにより、提出率は大きく向上した。しかし、まだ多くの生徒が主体的に家庭学習に取り組んでいるとは言えない状況にある。次年度は、日々の授業との関連を深めるなど、学習内容の見直しを進め、意欲を持って家庭学習するよう、内容の充実を図っていく。</p>			漢字帳(国)	数学プリント	単語帳(英)	1年生	10月	100%	95%	95%	1月	100%	99%	98%	2年生	10月	62%	69%	63%	1月	95%	94%	94%	3年生	10月	69%	87%	79%	1月	63%	89%	75%
		漢字帳(国)	数学プリント	単語帳(英)																																		
1年生	10月	100%	95%	95%																																		
	1月	100%	99%	98%																																		
2年生	10月	62%	69%	63%																																		
	1月	95%	94%	94%																																		
3年生	10月	69%	87%	79%																																		
	1月	63%	89%	75%																																		
豊かな心	1 生徒の自主性や心を育成する教育の充実	★ 新規	生徒行動目標(本年度は「あいさつ」「ルール(時間を守る)」「環境美化」の3項目を重点)の具現化を図り、3項目を意識して行動できる生徒を80%以上にする。	B	<p>▽「気づく・動く・ひろげる(つなく)」を教職員の行動目標として、「日常的に『生徒行動目標』を指導に活用した」と回答する教職員を90%以上にする。</p> <p>△「駅中はあいさつができる」「駅中はきまりが守れる」「駅中はゴミがなくなきれい」の3項目について、生徒の平均肯定回答を70%以上にする。</p>	<p>□ 1月末の教職員アンケートで、「生徒行動目標(挨拶・ルール・美化)を意識して指導している」の肯定的回答は100%で、全教職員が、日常的に指導に活用している。</p> <p>□ 生徒行動目標の本年度重点の3項目について、2学期末の生徒アンケートでは、「駅中は挨拶ができる」…90%、「駅中はきまりが守れる」…69%、「駅中はゴミがなくなきれい」…59%であり、3項目の平均肯定回答は73%で、中間評価を1ポイント下回ったものの、目標は3ポイント上回った。</p> <p>○ 2学期末生徒アンケートにおいて、「生徒行動目標を意識して行動している」の肯定的回答は74%であり、3項目に限定したものではないが、目標を6ポイント下回った。</p> <p>◎ 教職員の意識は高まっているものの、「ルール(時間を守る)」と「環境美化」については課題が残った。しかし、保護者アンケートでは、「時間を守る」…100%、「環境美化」…94%の肯定的評価があった。次年度も委員会や生徒会活動の充実など現在の取り組みを継続し、生徒の意識向上を図っていく。</p>																																

		<p>新規</p> <p>自己の能力や心を育てる教育を推進し「駅家中は誇りが持てる」と答える生徒を80%以上にする</p>	<p>B</p>	<p>◇道徳教育やHR活動の中で、感性を高める教材や話題、1分間スピーチ等の活用を通し、「学級が温かい雰囲気でお互いが安心して学べる場だ」と感じる生徒を80%以上にする。</p> <hr/> <p>◇日常的に「心に響く言葉かけ」や「自分を振り返ることの大切さ」を指導し、生活メモ（5行以上記入）の提出率を70%以上にする。</p> <hr/> <p>△キャリア発達育成プログラムを実践し「将来の夢や目標を持っている」と肯定的に答える生徒を70%以上にする。</p>	<p>a</p> <hr/> <p>a</p> <hr/> <p>a</p>	<p>□ 1月末の教職員アンケートでは、教科授業・道徳・HRで思考の深化を図ったり、自尊感情や感性を高める評価や教材・話題などの活用、また、1分間スピーチの活用などについての肯定的回答は89%~100%であった。特に中間評価時点で課題とした「集団の質を高めるHR」や「HRの中で生徒が自らを振り返る活動を仕組む」の2項目に関しても、75%から89%へと14ポイント上げることができた。</p> <p>□ 2学期末生徒アンケートでは、「学級が温かい雰囲気でお互いが安心して学べる場である」の肯定的回答は82%で、中間評価時点より3ポイント上がるとともに、目標を2ポイント上回った。また、12月時点での教員集計による生活メモの提出率の全体平均は83%で、目標を13ポイント上回った。</p> <p>□ 生徒アンケート「将来の夢や目標を持っているか」の質問に対し、3年生…87%（「保育体験」「高校訪問」後）、2年生…79%（「職場体験」後）、1年生…82%（「福祉体験」後）が肯定的回答であった。全学年の平均は83%と目標を13ポイント上回った。</p> <p>○ 2学期末の生徒アンケートでは、「駅家中学校は誇りの持てる学校である」に対する肯定的回答は76%であり、目標を4ポイント下回った。</p> <p>◎ 生徒・教職員ともに、全体的には「誇りある駅家中学校にしよう」という風土は育っている。また課題であった「質の高い集団づくり」や「自らを振り返る活動」などを意識的に仕組んだHR経営も進み始めた。しかし、「キャリア発達に関わる能力の育成」に関し、生徒アンケートで「自分の良さが周りから認められている」に対する肯定的評価は63%であった。自己肯定感を十分に育てていないことが、短期経営目標が達成できなかった一要因とも考えられる。特に2年生に課題があるので、次年度、道徳の充実や朝会・集会や部活動などを活用し、心を育てる教育を推進していく。</p>
		<p>継続</p> <p>不登校生徒の未然防止を推進し、不登校生徒を全国平均より25%以上減少させる。</p>	<p>A</p>	<p>▽月1回校内委員会を開催し、情報交換、協議を行い実践に活かす。</p>	<p>a</p>	<p>□ 校内委員会は月に1回実施している。</p> <p>○ 昨年度の不登校生徒全国平均は2.77%である。本校の1月までの不登校生徒の割合は1.75%で、全国平均より46%の減である。</p> <p>◎ 校内委員会について開催は出来ている。また情報交換に終わりがちであったが、支援の記録ノートを作成など、協議・実践も進み始めた。しかし毎年、不登校生徒が増加している実態もある。個々の生徒についての実態把握や取組みの方向性をしっかり協議し記録化し、組織的な対応を進めていく。</p>

健やかな体	2	新体カテストの全項目で、全国平均を上回る。	継続	体力向上のための学習内容の工夫を図る。	A	▽体育授業の90%以上の時間に、体力向上を図るための、学習内容を取り入れる。	a	<input type="checkbox"/> 「上体起こし」などの補強運動を毎時間、授業開始時に行っている。 <input type="checkbox"/> ほぼ毎時間に補強運動を取り入れることができた。新体カテスト(一部種目)を12月に行う予定であったが、実施できなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 今年度の新体カテストの結果は、男女各8種目中、男子は6項目、女子は4項目が全国平均を上回っている。中期経営目標の達成率は62.5%である。今後も継続して取り組んでいく。
			継続	部活動の活性化を図り「駅中は部活動が盛んである」と答える生徒を90%以上にする。	A	△「部活動に積極的に参加した」と答える生徒を75%以上にする。	a	<input type="checkbox"/> 2学期末の生徒アンケートでは、77%が「部活動に積極的に参加している」に肯定的回答であった。 <input type="checkbox"/> また、「駅中は部活動が盛んである」の肯定的回答は94%と目標を達成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 部活動には全体的によく参加している。部として目標を明確にしたり、個人の課題や技能習得をめざし、意欲的に活動している。継続して取り組んでいく。
教職員 力量ある	2	校内研修を充実し、教員の教科指導力を向上する。	継続	月に1回以上、校内研修会を実施するとともに、研修内容の充実を図る。	B	◇研修会や研究会での研修内容をA4一枚にまとめ報告・学習し、日常の実践に活かす。	d	<input type="checkbox"/> 校外での研修・研究内容をA4一枚にまとめ報告できた教職員は50%であった。 <input type="checkbox"/> 「聴く」「ことばの教育」を視点とした校内研修会は、1学期3回、夏季休業中1回、2学期に2回と計6回行っている。さらに3学期にも1回実施予定である。 <input type="checkbox"/> 「聴く」「ことばの教育」などに視点を当てた授業改善に関わる6回の研修に加え、不祥事を中心に服務に係る研修や生徒の心のケアに関わる研修など、1月末までに校内研修会を12回実施した。 また、不祥事に関する研修に講師を招聘したり、授業改善に関わる研修ではワークショップ型を仕組むなど、研修内容の充実も図っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 研修報告については、教務主任からの指導を強化したが、なかなか徹底できなかった。しかし、1月の校内研修において生徒指導主事(不祥事防止委員会)から出された、アンガーマネジメントは、生徒への指導に効果を発揮している。次年度に向けては、各主任からの研修報告を確実に行わせ、全教職員へと広げていく。 また、校内研修については引き続き、教務主任・研究主任をはじめ、各主任を核とした研修を実施していく。
						▽「聴く」「ことばの教育」を視点にした校内研修会を5回以上実施する。		

信濃市の学校 市民から	1 校長を中心とした組織的な学校運営	★ 新規	「チーム駅家」という意識(目標70%)を高め、学年や分掌を組織的に機能させる。	B	▽毎週1回の校務会や月1回の企画会での進捗度のチェックや状況交流の内容を充実し、各主任・主事を中心として教職員が自らの役割を果たす分掌・学年を構築する。 (教職員アンケートにおいて、所属する分掌・学年で、「自分の役割を認識している」及び「自分の役割を果たしている」の平均肯定的回答を90%以上にする)	b	□ 毎週の校務会や毎月の企画会は、出張など特に事情の無い限り、確実に実施してきた。また、その中で実践の進捗度や状況交流もできている。しかし1月末の教職員アンケートで、役割の認識や役割を果たすことに関する平均肯定的回答は88%で、目標を2ポイント下回った。 ○ 1月末の教職員アンケートにおける『「チーム駅家」の意識をもって、生徒に接したり、校務を行っている』に対する肯定的評価は100%であった。チームとしての意識が高まり、日常的に主任を中心に組織的な動きが構築されてきていると考えている。 ◎ 次年度も継続して校務会・企画会の充実を図り、主任・主事 の力量や指導力を向上させ、各学年・分掌を機能させていく。
		継続	学校からの情報発信を推進し、「学校の活動が良く分かる」と答える保護者を70%以上にする。	A	▽学年便りを各学年年間8回以上、学校便りを年間7回以上発行する。 ▽5月から毎月1回以上HPを更新する。	a	□ 各学年の学年便りは1月末までに、1年生…12回、2年生…16回、3年生…13回、発行している。また、学校としての発行は、生徒行動目標の本年度新規重点である「環境美化」に関する「駅中短信」など11回であり、目標を達成している。 □ HPについては、5月から確実に1回以上更新できている。特に本年度は教頭の指導により、内容の充実も図られている。 ○ 12月に行った、保護者からの聞き取り調査の結果は、75%が肯定的評価であった。しかし、調査対象がPTA役員を始め、来校される頻度の多い保護者が中心であったため、高い結果となったことも予想される。現在、全保護者を対象にアンケート調査を実施している。3月中旬には集計結果が出るので、HPにアップする。 ◎ 次年度も継続して取り組んでいく。